

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第1回所沢市文化財保護委員会
開 催 日 時	平成30年5月31日(木) 午後2時00分 から 午後4時00分
開 催 場 所	市役所602会議室
出 席 者 の 氏 名	林 宏一 新藤康夫 谷川章雄 羽生修二 新井政明 宮本八恵子 佐藤孝之 金井秀人 金澤 光
欠 席 者 の 氏 名	
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	議事 1 膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品の文化財指定について (答申) 2 所沢市山口観音仁王門金剛力士像調査報告 3 その他 報告 1 文化財保護課事業報告 2 埋蔵文化財調査センター事業報告 3 滝の城跡整備事業報告 4 ミヤコタナゴ保護対策事業報告 5 生涯学習推進センターふるさと研究グループ事業報告 6 その他
会 議 資 料	・膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品の文化財指定について(答申) 【会議資料:1】 ・所沢市山口観音仁王門金剛力士像調査報告【会議資料:2】 ・文化財保護課事業報告【報告資料:1】 ・埋蔵文化財調査センター事業報告【報告資料:2】 ・滝の城跡整備事業報告【報告資料:3】 ・ミヤコタナゴ保護対策事業報告【報告資料:4】 ・生涯学習推進センターふるさと研究グループ事業報告【報告資料:5】
担 当 部 課 名	教育長:内藤隆行※委員長あいさつ後退席 教育総務部 部 長:美甘寿規※報告事項途中から出席 生涯学習推進センター 所 長:倉富恵理子 主 査:田島直子 文化財保護課 参 事:木村立彦 主幹:根本靖 主 査:荒井英子 関口祐子※自己紹介後退席 主 任:窪地康幸 教育総務部文化財保護課 電話04(2998)9253

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>議長</p> <p>事務局</p>	<p>開会</p> <p>委嘱状の交付</p> <p>委員の欠員補充に伴い、平成30年5月31日付けで新たに金井委員、金沢委員の委嘱を行い、内藤教育長から両委員に委嘱状が交付された。また、各委員が自己紹介を行った。</p> <p>教育長あいさつ</p> <p>文化財保護委員長あいさつ</p> <p>4月1日付け人事異動に伴う事務局職員の自己紹介、配布資料の確認後、林委員長が議長となり、議事を進める。</p> <p>冒頭「所沢市情報公開条例」に基づき本会議、会議資料、会議録の公開について諮り、公開とすることを議長が宣言。次に、会議録については要約方式、発言者の委員名は出さず「委員」の表示とすること、会議録の確定は議長（委員長）の承認で行うことを確認した。</p> <p>議事</p> <p>1 膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品の文化財指定について（答申）</p> <p>膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品の文化財指定の答申案について、前回会議で指定の結論でまとめました。本日、答申書の案を準備してありますので、まず事務局より説明をお願いします。</p> <p>会議資料1が所沢市指定文化財の指定についての答申案です。※確認のため、会議資料1の「所沢市指定文化財の指定について（答申）」を読み上げる。</p> <p>前回の会議において、指定候補全50点の実物資料を委員の方に実査の上で、ご審議いただきました。膳棚遺跡は縄文時代中期後半の集落跡で、所沢市の南西部、西所沢駅の西約1.5kmに位置し、六ツ家川を南に臨む所沢台地上の標高80～90mに立地します。範囲は東西約550m、南北約340mと市内でも規模の大きな遺跡で、遺跡自体は市史跡として昭和44年6月に指定されています。遺跡の範囲図、指定候補の一覧表、写真一覧を資料として添付しています。</p> <p>今回指定候補となっているのは、昭和42年に実施された第1</p>

	<p>次、第2次調査で膳棚遺跡から出土した土器と土製品です。埼玉県教育委員会において保管収蔵、一部は展示されてきましたが、平成27年度から29年度にかけて所沢市へ移管されました。そこで今回状態の良いものを選定し、指定候補としたものです。</p> <p>※まとめとして、会議資料1の「新指定文化財概要」を読み上げる。</p>
議 長	<p>この件については既に何回か審議し、文面等もこの内容で、前回委員の方々の承認を得たところです。担当委員から何か補足等がありますか。</p>
委 員	<p>特に変更等はありません。もう何回か現物も見ていただきましたが、遺跡の範囲図中の網がけが調査をした箇所、その中に小さい丸が重なっているところが住居跡です。今回指定する縄文土器が出た所は、遺跡全体の西側の方に集中しています。この膳棚遺跡は貴重な住居跡が出たということで史跡に指定されており、そういった所から出土した貴重な資料です。</p>
議 長	<p>では、名称は膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品、種別は有形文化財・考古資料、員数は50点、所有者は所沢市、文化財に指定するに相応しいものである、ということでしょうか。</p>
事務局	<p>答申書に添付する新指定文化財概要で、「出土遺物が所沢市へ移管」となっている箇所がありますが、所沢市から埼玉県へ出土遺物の譲与申請をしており、所沢市の方へ譲与されていますので、「移管」を「譲与」と修正したいと思います。</p>
議 長	<p>行政的な手続き上その様であれば、文言を修正しましょう。</p>
事務局	<p>少々お時間をいただき、修正いたします。</p>
議 長	<p>ではその間に、次の議事を進行したいと思います。</p> <p>※文言の修正を行う間、次の議事に進む。</p>
議 長 事務局	<p>2 所沢市山口観音仁王門金剛力士像調査報告</p> <p>まず事務局より、説明をお願いします。</p> <p>市内の金乗院・山口観音の仁王門金剛力士像について、平成30年3月27日に調査を行いました。</p> <p>こちらの金剛力士像は、平成23年の東日本大震災の時に頭部や天衣の部材が落下するなどの被害がありました。像は、通例の阿形、吽形一対の像で、共に寄木造り、阿形が246.5cm、吽形が242.5cmほどの像高です。像の彩色は、享保9年(1724)の仁王門再建時のものとみなされます。制作年代は、『金乗院明細</p>

<p>議 長</p>	<p>帳』に「門の左右に仁王尊あり。貞治3年（1364）所建なり」と注記があります。前述の震災の時に、お寺の方で被害を受けた像の復旧にかかったところ、後頭部の内側に「貞治3年」と「法橋」の墨書を確認されたとのことから、事実を伝えた注記と思われる。また、様式や作風からも鎌倉彫刻の余光が見いだされ、南北朝時代に制作されたものとみなされます。なお、仁王門は享保9年に再建されたことが明細帳に記され、昭和9年に修理された記念に「仁王尊修理記念碑」が建てられています。現在、金剛力士像と仁王門の修復等をお寺の方で検討中とのことですので、適切な修復がなされるように協力してまいります。</p> <p>いくつか補足いたします。像高240cmを超える像ですが、比較的柵の低い仁王門に安置されており、やや窮屈げに収まっています。報告の通り、お寺の方々が仁王様を自分たちで修理された時に、頭部の中に墨書を視認されたということですが、写真等は撮っていませんでしたということ。ただ明治期の明細帳には、享保9年に門を修理して、仁王尊は貞治3年の建てる所なりと記していますので、享保の修理時に貞治の記録か銘文を見て、明細帳の内容を書いたものとも考えられます。この仁王様の頭部は古様を示し、鎌倉的な要素が強く出ていますので、南北朝時代のものとしてよろしいかと思えます。</p> <p>体の部分は、仁王様が筋骨隆々で、やや誇張した造形でつくられるので、時代判定は難しいのですが、この像はやや近世的、江戸彫刻的なモデリングの表現をしているところがあります。特に腕などは相当誇張がかかり、形式化したような表現をされています。これは享保9年に体の方を直したか、両腕などは新補したものという可能性も考えられます。現在お寺が修理を検討しているようですので、実現した場合、更に詳しい内容が判ると思えます。それを待ち、お寺の方とも相談しながら、新たな文化財指定をするということでもよいかと思えます。特に山口観音には仏像が数多く残されていますので、この仁王様も指定の候補になるものであるということで、報告としたいと思えます。委員の方々、何かご意見等ありますか。</p>
<p>委 員 議 長</p>	<p>頭部だけが落ちたんですね。</p> <p>この像のつくりは頭が大きく、首柄で体内に差し込んでいると思いますが、その首柄の部分が弱って緩んでいます。頭は結構厚い材を三つ前後に重ねて作って差し込んでおり、これが重たいと思われ、揺れの影響が上の方にあり、頭が落ちたようです。吽形の頭は</p>

	<p>落ちなかったので、緩み具合の差があるかと思います。</p>
委員	<p>直した後に墨書を確認できないということは、接着剤か何かで直したということですか。頭部を抜いて中は見られないんですね。</p>
議長	<p>今は固定されています。本職の方々に直してもらうのが良いのですが、お寺で応急的に直したということです。</p>
委員	<p>この記述の元になっている金乗院明細帳、年不詳ということですが、江戸時代の後期あたりの時代のものでしょうか。</p>
議長	<p>明細帳が出てくるのは大体江戸期と、それから明治の時にも書き上げを出しています。</p>
事務局	<p>明細帳は、明治の初め、埼玉県の行政文書の中で、お寺が県に提出した書類で、そこに明細帳の記述があるという形です。『所沢市史』の社寺編には、明細帳だけでなく縁起も記載されていますが、市史で見た限りでは、縁起には仁王門関連の記述は確認できませんでした。</p>
議長	<p>以前に調査した山口観音の本尊の千手観音と毘沙門の三尊がいずれも平安の物で、お寺の歴史を考えると、仁王様がそのくらいの時代の物であっても、おかしくないものと考えられます。いずれにしても、修理が実現した時にわかるかと思います。</p>
議長	<p>※新指定文化財概要の修正が終了し、修正版が配布される。 新指定文化財概要の修正が終了したので、議事の1の答申について一度戻ります。今お手元に配布された資料の修正箇所をご確認いただきたいと思いますが、この内容で教育長に答申をするということよろしいですか。</p>
全員	<p>異議なし。</p>
議長	<p>それでは、新たな指定文化財の答申については、用意が整った後に答申をするということで、よろしく願いいたします。では、引き続き山口観音の金剛力士像の件に戻りますが、他にご意見などいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>この案件については、十分指定候補に値すると考えています。ただ山口観音には、先程の補足のとおり、他の仏像をはじめ多数の未調査資料があります。お寺のご協力をいただき、他の資料についても調査を進め、調査の経過状況を確認しながら、今回の金剛力士像を含めて、指定の方法を考えていきたいと思っています。</p>
議長	<p>その方向でよいと思います。では、ある程度時間をかけて、各分野で委員の方々のご協力をいただきながら調査を進め、最終的にトータルで指定を考えていくということで、よろしいでしょうか。</p>

<p>全 員 議 長</p>	<p>異議なし。 では今後その様に進めていくということで、よろしく願いいたします。</p>
<p>議 長 事務局</p>	<p>2 その他 その他は何かありますか。 継続案件の旧和田家の衣生活資料については、担当委員に見ていただきながら、今後の方針を継続的に諮っていきたいと思います。</p>
<p>委 員 議 長</p>	<p>また、同じく継続案件の齊藤家文書についても、現在資料の整理を実施中で、秋頃までに整理が終わりそうなので、それを見てまた諮問するかどうか、経過報告も含めて見ていきたいと思います。 旧和田家の衣生活資料は、全体確認を前年度に行いまして、来月から全点確認作業をしたいと思います。 よろしく願いします。他にご意見等無ければ、その他の議事については審議を終わります。</p>
<p>事務局</p>	<p>報告 1 文化財保護課事業報告</p>
<p>委 員</p>	<p>報告資料1により平成29年度事業報告・平成30年度事業計画の報告がされ、関連して委員から提案があった。 ・民俗資料館の収蔵状況が限界に達している。資料の状態を考えると、収蔵状況の改善を待ってられる時間が無いので、展示や収蔵の方針に思い切った措置が必要だと思うがどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>→収蔵状況の整理は少しずつ進めているが、指定文化財の資料が収蔵されていたりするので、委員の方々の御指導をいただき、協議しながら状況の改善をさらに進めたい。 ※この後、答申書の用意が整ったため、林委員長から美甘部長へ答申書が手渡された。 2 埋蔵文化財調査センター事業報告 報告資料2により平成29年度事業報告・平成30年度事業計画の報告がされた。 3 滝の城跡整備事業報告 報告資料3により平成29年度事業報告・平成30年度事業計画</p>

	<p>の報告がされた。</p>
<p>委 員</p>	<p>4 ミヤコタナゴ保護対策事業報告 報告資料4により平成29年度事業報告・平成30年度事業計画の報告がされ、委員の質疑があった。</p>
<p>事務局</p>	<p>・個体維持なら、最低でも4000尾位を目標にした方がいいと思う。水槽等スペースの問題があるならミヤコタナゴの飼育に絞り、人工授精する系統と、貝に産ませる経験をさせる系統を育てるとよい。人工授精の系統だけだと繁殖期に貝に産まない可能性がある。また、二枚貝の飼育の研究も進める必要があると思うがどうか。 →スペースの問題はあるが、5000尾飼育していた時期もあるので、水槽の適正数等を勘案しながら検討したい。二枚貝は実験の溜め池が完全に無くなったので、繁殖実験方法を検討したいと思う。 自然繁殖は貝を使用し試みているが、水槽の中だけで限界がある。自然の環境を実験的に活用するのも難しい状況なので、他部署とも連携しながら取り組んでいきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>・ミヤコタナゴを繁殖する前に、ヤリタナゴを上山口の柳瀬川の上流で繁殖できるような環境を作り、その後ミヤコタナゴに徐々に変えていくという形をとった方がいいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>→下流域は綺麗になっているが、上流域は水量が無く、かつての田んぼが枯れているなど、自然再生が難しい現状がある。所沢市はマチごとエコタウンなどで、自然再生についても昔の里山の原風景を戻したいという思いがあるので、色んな面で取り組んでいきたい。</p>
	<p>5 生涯学習推進センターふるさと研究グループ事業報告 報告資料5により平成29年度事業報告・平成30年度事業計画の報告がされた。</p>
<p>委 員 事務局</p>	<p>・自然系の学習会みたいなのは少ないのか。 →自然系専門の職員が不在で、現在企画が難しい状況になっている。</p>
<p>委 員 事務局</p>	<p>・所沢は色々な川があるので、市民参加等で生き物調査を行ってもらい、そのデータを収集・蓄積して行ってほしい。今、市の部門でそういう調査をやっている部署はあるか。 →環境クリーン部に環境対策等の部門があり、昨年度柳瀬川上流の委託調査をしていたりもする。みどり自然課等、自然分野の担当課と連携し、自然系事業についても協力してできるかどうか、その辺</p>

	<p>も研究課題として今後取り組んでいきたい。</p> <p>6 その他 <その他の報告事項なし></p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・次回、平成30年度第2回会議は、10月下旬に開催を予定。
--	--